

学園

平成19年7月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話 (0867) 66-3651

FAX (0867) 66-3652

E-mail jerko@mx4.et.tiki.ne.jp

<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>

だより



第43期生 蒜山ハーブガーデン ハービルにて

巻頭の言葉

校長 上原逸史



ます。

我が国の農業を取り巻く情勢は、少子高齢化や担い手の減少、輸入農産物の増加、食の

広大で牧歌的な雰囲気
の蒜山高原のなかで酪農
大学校は、穏やかな春を
迎えています。卒業生の
皆様は、お元気でご活躍
のことと思います。

さて、四月五日に第四
十三期生二八名の入学式
を多数のご来賓のもとに
盛大に挙行いたしました。
この一年生も一ヶ月が過
ぎ、寮生活にも朝早い搾
乳にも慣れ、自分の目的
に向かって張り切ってい

が減少し脱脂粉乳とバター
の在庫が増え色々対策は
取られてきましたが、平成
十八年度から十二年ぶり
の減産型計画生産がとら
れ、本年も継続されます。

また、最近の穀物価格は
バイオエタノール需要や
中国の需要が増え、それ
に加えて小麦の主要生産
国である豪州の干ばつ

による生産減などにより
高騰しております。この
ことは本校においても、
皆様と同様に経営に影響
しておりますが酪農の担
い手を育てる学校として
頑張っていく所存です。

そして、農林水産業は
農業生産や農地・農業用
水等の資源を保全し、国
民の食料を安定的に供給
し、国土や自然環境の保
全等に貢献しています。
酪農においても同様で、
これらの質を高めるため
には周辺地域と共同で取
り組んで地域の環境と調
和をとり、消費者のニー
ズをつかみ対応できるよ
うに取り組んでいく必要
があります。

このような状況を踏まえ
我が国の酪農を担う若
者には自立の精神と優れ
た経営感覚、国際化に対
応できるようになっても



らいたいと考えています。
これからも更なる飛躍
を目指している酪農大学
校に限りない皆様方のご
支援とご指導を賜ります
ようお願い申し上げます。

▼追伸

前年度の学園便りで報
告していますが、第一牧
場の搾乳牛舎も完成し、
第二牧場の事務所の南側
に整備していた「ジャー
ジーふれあい広場」も完
成し、連休前から子牛を
いれ観光客の癒しの場
になっていきます。



第1 牧場新牛舎全景

筒井 豊実 横田 寛人 長尾 久人 飯山 茂人 小谷 孝明 岩崎 孝明 松本 明 次郎丸 服部 靖 小沢 直 長恒 泰治 池田 輝義 川合 省吾 樋口 照夫 田上 公正 尾崎 浩

出席者

樋口 貴明 遠藤 裕史 御船 修二 岩川 孝行

(以上敬称略)

平成十八年七月二十六日、財団法人中国四国酪農大学校同窓会総会を行いました。総会終了後、完成間近の第一牧場新牛舎を見学してもらいました。

同窓会総会を行いました



同窓会総会参加者

第41期生卒業証書授与式

- 理事長表彰** (特に学業品行優秀な者)
理事長表彰 優等賞 三宅由美菜 (岡山県)
- 全国農業大学校協議会会長表彰** (特に成績優秀な者)
三宅由美菜 (岡山県)
- 校長表彰**
 - **優等賞** (学業品行優秀な者)
井上 春菜 (岡山県) 土師 真代 (岡山県)
志賀 祐紀 (広島県)
 - **精勤賞** (遅刻欠席などが無く、精勤に学習した者)
角田 巧樹 (福岡県) 川上 恵里 (広島県)
志賀 祐紀 (広島県)
 - **努力賞** (学業、学校生活にわたり努力が認められた者)
高津 慶子 (岡山県) 松岡 雅人 (愛媛県)
水島佑太郎 (岡山県)
 - **就農激励賞** (卒業後直ちに就農し、今後その活躍が期待される者)
角田 巧樹 (福岡県) 川合 賢人 (岡山県)
小幡 農志 (熊本県) 高田 伸諒 (岡山県)
中島 貴信 (熊本県) 松井 貴俊 (兵庫県)
 - **卒業論文賞** (卒業論文が独自性に富み、優秀であった者)
井上 春菜 (岡山県): 「乳静脈の発達と乳量」
角田 巧樹 (福岡県): 「新旧第1牧場の牛床の比較と今後の課題」
水島佑太郎 (岡山県): 「牛における効果的な敷料の利用について」

教務課 便り

第43期生入学式

平成19年4月5日、第43期生28名(p8)が入学しました。内訳は男子学生15名、女子学生13名です。内、後継者は9名です。出身地で見ると、中国四国及び兵庫県が21名(内10名が岡山県出身者)、その他の地域としては、遠く東京から長崎まで7名となっています。



第41期卒業生





同窓会長

あいさつ

財団法人中国四国酪農대학교

同窓会会長(第九期生)

川合 省吾



同窓諸兄の皆様いかがお過ごしでしょうか、私は昨年以前同窓会長の筒井氏よりご指名を受け新たに同窓会長を拝命いたしました九期の川合省吾です。

さる四月五日に本校も第四十三期の新生を迎えました。近年、後輩の子弟の入学の報に接することも増え、改めて過ぎた時間の長さを感じております。わが母校も一、〇〇〇名以上の同窓諸兄を送り出してきました、決まり事の苦手な私によく合っていた校風(放牧状態)と実

践的な学習内容(主に実技)は今後も脈々と受け継がれていくこととでしょう。

日本の社会も少子高齢化になり、酪農のみならず流通、量販、製造業界も変革の時期に来ておりますし、IT時代の対応として情報の発信が重要になってまいりました。

そんなおり先輩諸兄の方々から「同窓会のつながりが薄い」との宿題もいただいておりますが何をしたいのかよくわからない頼りない会長ですので、アイデアのある方々は遠慮なくお申し出ください、同窓会などのイベントに反映できればと思っております。

酪農대학교を卒業して

第四十一期生 高田 伸諒

僕は、この春酪農대학교を卒業し、現在地元蒜山で実家の酪農をする傍ら、蒜山地域で臨時の酪農ヘルパーとして働いています。

実家が酪農家で、自分も将来は酪農後継者として酪農に携われればと考えていたので、高校は酪農経済科のある日本原高校、そして酪農대학교へと進学しました。

それまで、家の酪農作業を手伝いながらも、僕はその意味やそうしないといけない理由につ

一年生になって

第四十二期生 上森 亨

松谷圭一郎
万代聖梨奈

入学してから早くも一年が経つきました。最初は分からないことばかりで、とまどいながら牧場実習や勉強をしていたことを昨日のことにように思い出します。牧場実習では作業の効率を高めることを目標に全員で協力し、それだけでは足りない部分を先輩方に教えて頂きながら作業の一つずつを自分の物にしていくことができました。また、つらいことばかりではなく、優しい先生や先輩達の指導により楽しく技術を身につけることが出来たと思います。中には実習についてこれなくなりそうな同級生もいましたが、そのようなときみんなで助け合い、問題を解決していくことの大切さも学びました。

座学の方では、酪農家になるために最低限のことだけは学ぼうと、一所懸命授業を受けたつもりでした。しかし振り返ってみるともつとしっかり勉強するべきだったかと将来のことを考え不安になることもあります。今となっては残った学生生活の中で少しずつでも足りない部分を補っていけるよう努力するのみです。

寮生活では、共同生活の心得



写真左より42期生 上森、松谷、万代

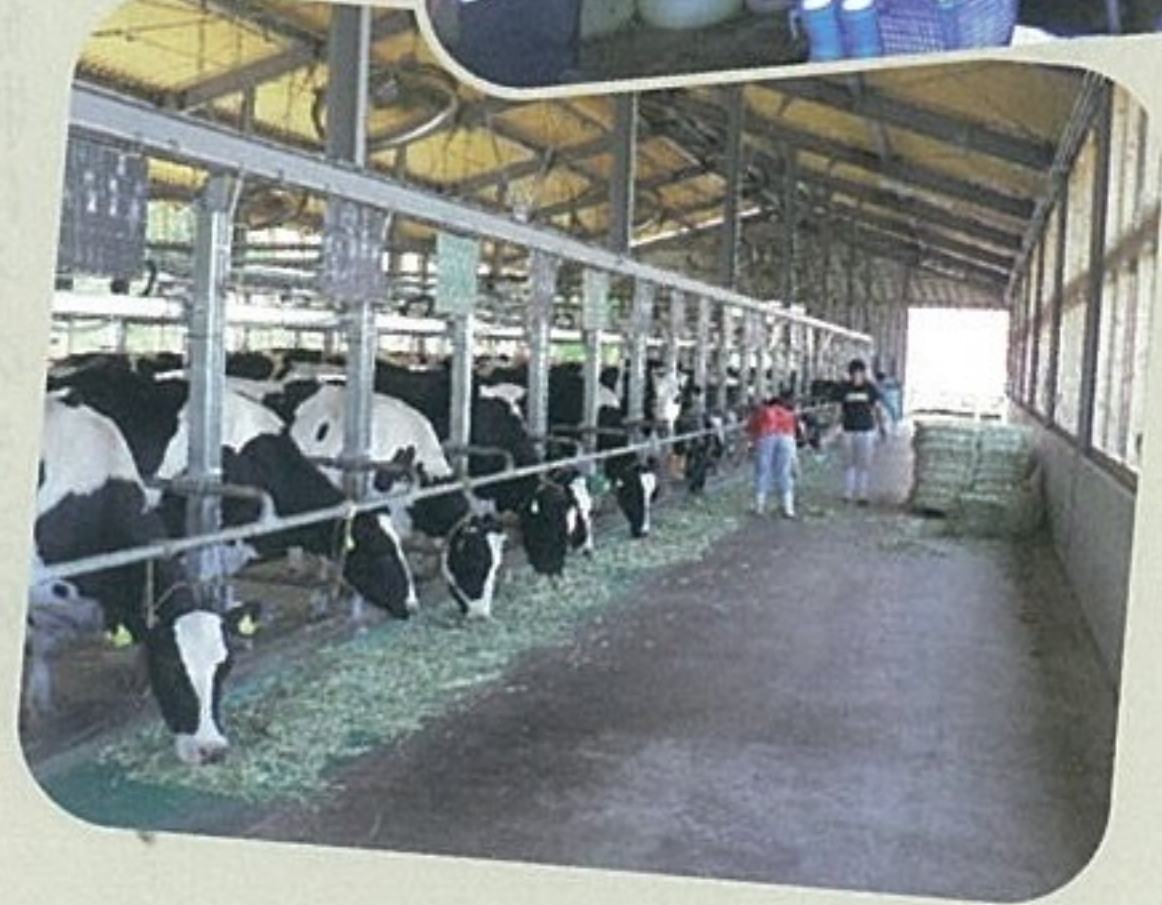
を先輩達から受け継ぎ、とても楽しく有意義に一年間を過ごすことが出来ました。今後は、先輩達が私たちのような一年間を過ごすことが出来るよう、しっかりと先輩達から受け継いだものを受け渡していきたいと思えます。

これから私たちは、研修生として校外に出て行き様々な研修農家の現場で実習をさせて頂きます。その経験をこれからの自分の生き方に活かしていくことができるよう、精一杯取り組みたいと思います。また、二年生として先輩の自覚を持ち、後輩の hands となるよう学業面、生活面でより一層頑張り、受精卵移植や削蹄の資格なども積極的に取得し、卒業後は酪農業の活性化に少しでも力になることができるよう、頑張っていきたいと考えています。



財団法人中国四国酪農大学校も創設以来、今年で四十三年目にはいりました。昨年には念願の第一牧場も新築され年々新しい施設が増えています。わずかではあります但其の一部と、今も残る創設初期の施設を併せて掲載させて頂きます。お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さり、その目でお確かめ下さい。

酪農大学校 今昔 施設映像





第1牧場旧牛舎を育成牛舎に改装



新しい一年生二八名を
学校に迎え新年度が始ま
りました。この文章を書
いているのは、新入生も
学校の生活にも徐々に慣

れてきた五月初旬ですが、
卒業生の皆様にはお元気
でご活躍のこととお喜び
申し上げます。
最初に報告させて頂く

のは、第一牧
場の新搾乳牛
舎について
で、昨年の七
月末に完成し
九ヶ月が経と
うとしていま
す。既に見学
に来て頂いた
卒業生の方も
いらっしゃる
と思います
が、五〇頭の
対尻式タイス

トル牛舎で現在四〇頭
弱の搾乳牛を飼養してい
ます。ニューヨークタイ
ストールで牛床も広くな
ったこともあり、牛はゆ
つたりと快適に過ごして
いるように見えます。乳
質の方も良くなってきた
おり、体細胞数は概ね一
〇万前後で安定していま
す。問題は、牛体の汚
れが目立つところであり、
今後改善していきたいと
思っています。
また、今まで慣れ親し
んできた旧搾乳牛舎は、
外の建物はそのまま残し、
中のタイストールを撤去、
スタンションを設営して
主に初任牛を飼養してい
ます。
乳用牛の改良について
は、輸入精液を積極的に
活用し乳質及び体型の向
上を行ってきました。こ

飼養頭数

H19.4.1 現在

区 分	第1牧場	第2牧場
経産牛	40	97
育成子牛	32	62
乳用牛計	72	159
肥育牛	20	0
肉用牛計	20	0
合 計	92	159

れに加え、学生の教育の
意味も含め、場内の優良
牛から受精卵を採取しま
した。雌雄判別した受精
卵が何頭か受胎しており
今後期待していきたいと
思っています。
共進会の成績はあまり
ふるいませんでしたが、
今後上位入賞できるよう
な牛作りを行っていきたく
いと思っています。
最後に、第一牧場で長

年にわたってお世話にな
り、学生の指導にあたっ
て頂いていた樋口技師が
転勤されました。平成十
九年度の第一牧場は、山
田経営課長、中山場長、
佐藤技師で担当しており
ますのでよろしくお願
いします。また、近くにお
寄りの際は、本校に足を
運んで頂ければ幸いです。



平成19年度初放牧

第二牧場だより



若葉萌ゆる心地よい季節になってきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。昨年度の冬は例年にならない暖冬にみまわれしました。そのためほと

んど積雪がなく、二月でも草地が見える日がありました。おかげさまで除雪の出動回数が少なくスノーブロワー（除雪機）を使う日は一度もありませんでした。

今年度の初放牧は昨年と同じ四月二十四日に行いました。放牧地の後ろでは「こぶし」が凍らした白い花をつけ、春の到来を感じさせてくれました。今の時期毎年のことですが、第二牧場では作業に慣れていない

一年生やトウモロコシの播種準備、草地への施肥、そして一番草刈りがあり、天候の良い日は職員学生共々農場を忙しく動き回っております。

策点を模索しております。続いて雑草対策ですが草地更新を順次計画的に行っていくこと、また競合力の強いスーダンやソルゴーなどを作付し雑草を

また事務所前の県道を挟んだ南側にありました育成牛舎を改築し、芝生広場や駐車場を備えた「ジャージーふれあい広場」が完成いたしました。酪大第二牧場のジャージー（六ヶ月齢の雌牛、五頭）を放牧しております。ゴールデンウィーク中も連日多くの観光客に利用していただきました。

今年度の第二牧場は西場長、溝口技師、長綱技師、北野技師、寺田技師で担当しております。最後に最近の酪大学生

今、第二牧場の抱える問題点として乳質がそれほど良質ではないこと、圃場にワルナスビを始めとする強害雑草がはびこっていることが挙げられます。乳質対策に使い廻しのタオルをやめ、代わりに使い捨てのペーパーに切り替えました。しかし、思った以上の効果は得られず、新たな改善対

について書かせていただきます、学生の中で携帯電話のインターネットオークションが流行っていると聞きました。携帯電話で気に入った物を落札し、近くの郵便局で振り込むそうです。ここ県最北の蒜山の地にも少しずつですが新しい時代の波が近づいている気がします。

職員紹介

校長 上原 逸史 ◎
副校長 森本 博之
(教務課長兼務)

総務課

課長 中務 浩一 ◎

事務員

有富 英美
法花千恵美

教務課

技師

芦田 草太
岡崎 奈々
池田 良弘

調理員

谷口 育子
藤本 光子

経営課

課長

山田 徹夫 ◎

第一牧場

第一牧場長 中山 裕貴

技師

佐藤 光則 ◎

第二牧場

第二牧場長 西 淳子 ◎

技師

溝口 泰正

長綱 則之
北野 紘平
寺田 孝一 ◎

◎印は内部異動者
◎印は新職員